

## L02 2次元正規分布

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

多変量解析☆演習 L02(2021-10-07 Thu)

最終更新: Time-stamp: "2021-10-06 Wed 17:34 JST hig"

### 今日の目標

- 2次元正規分布の確率密度関数を母…から求められる
- 2次元正規分布の母ナントカを確率密…から求められる
- 2次元正規分布の周辺分布と再生性を説明できる



## L00-Q1

## Quiz 解答:2次元の連続型確率分布の周辺分布

①

$$f_X(x) = \begin{cases} \frac{1}{6} & (1 \leq x < 7) \\ 0 & (\text{他}) \end{cases}$$

$$f_Y(y) = \begin{cases} \frac{1}{6} & (1 \leq y < 7) \\ 0 & (\text{他}) \end{cases}$$

- ② 任意の  $x, y$  に対して  $f(x, y) = f_X(x) \times f_Y(y)$  が成立するので独立.
- ③ 任意の  $a$  に対して  $f_X(a) = f_Y(a)$  が成立するので同分布.

## L00-Q2

## Quiz 解答:2つの連続型確率変数の周辺分布

①

$$f_X(x) = \begin{cases} \frac{1}{18}(6-x) & (0 \leq x < 6) \\ 0 & (\text{他}) \end{cases},$$
$$f_Y(y) = \begin{cases} \frac{1}{18}(6-y) & (0 \leq y < 6) \\ 0 & (\text{他}) \end{cases}.$$

- ②  $f(x, y) = f_X(x) \times f_Y(y)$  が成立しないので独立でない。反例。  
 $(x, y) = (5, 5)$  に対して,  $0 \neq \frac{1}{18} \times \frac{1}{18}$ .
- ③ 任意の  $a$  に対して  $f_X(a) = f_Y(a)$  が成立するので同分布。

## ここまで来たよ

### ● 確率変数の和

### ● 2次元正規分布

- 一般の1次元正規分布
- 2次元正規分布 ( $X, Y$  が独立)
- 2次元正規分布 ( $X, Y$  が独立でない)

# 一般の1次元正規分布 normal distribution $N(\mu, \sigma^2)$

## 一般の1次元正規分布 $N(\mu, \sigma^2)$

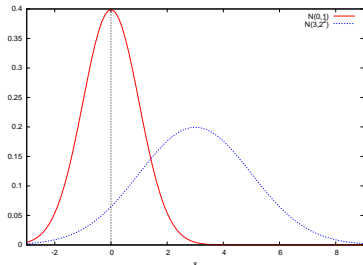
岩薩林 確率・統計 (4.23)

確率統計 I(2021)L08

母平均値  $E[X] = \mu$ , 母分散  $V[X] = \sigma^2$  の正規分布  $N(\mu, \sigma^2)$  の確率密度関数は,

$$f(x; \mu, \sigma^2) = \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} e^{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}}.$$

標準正規分布は,  $\mu = 0, \sigma^2 = 1$  のときのこと.  $Z \sim N(0, 1^2)$ .



## 標準正規分布の母期待値

$$Z \sim N(0, 1^2)$$

$k$  次のモーメント ( $k$ :自然数)

$$E[Z^{2k-1}] = 0, \quad \text{奇関数}$$

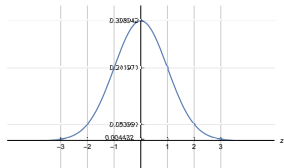
$$E[Z^{2k}] = (2k - 1)!!$$

$$= 1 \cdot 3 \cdot 5 \cdots (2k - 1) \quad \text{置換積分}$$

$$\text{全確率 } E[Z^0] = 1, \quad \text{岩薩林 確率・統計 (4.19) 微積分 II}$$

$$\text{母平均値 } E[Z] = 0, \quad \text{岩薩林 確率・統計 (4.20) 奇関数}$$

$$\text{母分散 } V[Z] = 1. \quad \text{岩薩林 確率・統計 (4.21)}$$



$Z \sim N(0, 1^2)$  と  $X \sim N(\mu, \sigma^2)$  との関係は、 $X = \sigma Z + \mu$ . モーメント

$$1 = E[X^0] = \int_{-\infty}^{+\infty} x^0 \cdot \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} e^{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}} dx$$

$$\mu = E[X] = \int_{-\infty}^{+\infty} x^1 \cdot \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} e^{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}} dx$$

$$\sigma^2 + \mu^2 = V[X^2] + E[X]^2 = E[X^2] = \int_{-\infty}^{+\infty} x^2 \cdot \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} e^{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}} dx$$

を公式のように使って計算する. 右辺の形にもって行って左辺を答える.  
L02-Q1

### Quiz(正規分布のモーメントを利用した定積分の計算)

$f(x) = e^{-2x^2+24x}$  に対して, 次の定積分の値を求めよう.

- ①  $\int_{-\infty}^{+\infty} f(x) dx.$
- ②  $\int_{-\infty}^{+\infty} x \cdot f(x) dx.$
- ③  $\int_{-\infty}^{+\infty} x^2 \cdot f(x) dx.$

## ここまで来たよ

### ● 確率変数の和

### ● 2次元正規分布

- 一般の1次元正規分布
- 2次元正規分布 ( $X, Y$  が独立)
- 2次元正規分布 ( $X, Y$  が独立でない)



## 2次元正規分布 ( $X, Y$ が独立でない) をレビュー

一般の2次元正規分布 (あとからもっと美しい形で書く)

連続型確率変数  $X, Y$  が 次の同時確率密度関数 確率統計 I(2021)L03 を持つとき、 $X, Y$  は2次元正規分布にしたがうという。

$$\begin{aligned} f(x, y) &= \text{定数} \times e^{-a(x-\mu_X)^2 - b(y-\mu_Y)^2 + cxy} \\ &= \text{定数}' \times e^{-ax^2 - by^2 + cxy + px + qy} \end{aligned}$$

$a, b > 0$ .  $c$  と定数はある条件を満たす定数.

## 2次元正規分布で $c = 0$ ( $X, Y$ が独立) 岩薩林 確率・統計 §4.6, 例題 4.12

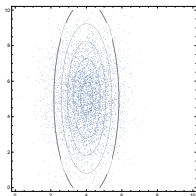
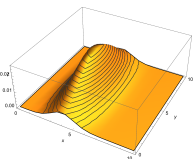
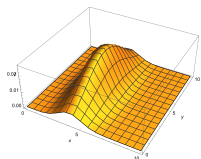
確率変数  $X, Y$  に対して, 次の同時確率密度関数 確率統計 I(2021)L03 を考える.

$$f(x, y) = \frac{1}{(2\pi\sigma_X^2)^{1/2}} e^{-\frac{(x-\mu_X)^2}{2\sigma_X^2}} \times \frac{1}{(2\pi\sigma_Y^2)^{1/2}} e^{-\frac{(y-\mu_Y)^2}{2\sigma_Y^2}} .$$

$c = 0$  のとき,  $X, Y$  の周辺分布は… よって  $X, Y$  は独立.

$$E[X] = \mu_X, \quad E[Y] = \mu_Y, \quad V[X] = \sigma_X^2, \quad V[Y] = \sigma_Y^2, \quad E[XY] = \mu_X \cdot \mu_Y$$

$$\text{母共分散 } \text{Cov}[X, Y] = 0, \text{ 母相関係数 } r_{XY} = \frac{\text{Cov}[X, Y]}{\sqrt{V[X]}\sqrt{V[Y]}} = 0$$



$f$  の等高線は  
( $\mu_X, \mu_Y$ ) を中心  
とする楕円.

## L02-Q2

## Quiz(2次元正規分布)

次の同時確率密度関数は2次元正規分布を定める.

$$f(x, y) = C \cdot e^{-x^2 - 4x - 2y^2 + 12y - 5}.$$

- 1  $X, Y$  の母平均値, 母分散, 母共分散を求めよう.
- 2  $E[1] = 1$  が満たされるように定数  $C$  を定めよう.

2次形式の標準化 (線形代数 I)

## L02-Q3

## Quiz(2次元正規分布)

次の2変数確率密度関数は2次元正規分布を定める.

$$f(x, y) = C \cdot e^{-4x^2 - \frac{1}{6}y^2 + 2y}$$

- ①  $X, Y$  の母平均値, 母分散, 母共分散を求めよう.
- ②  $E[1] = 1$  が満たされるように定数  $C$  を定めよう.

## 再生性 reproductive property

### 正規分布の再生性 岩薩林 確率・統計 定理 4.3

独立な連続型確率変数  $X \sim N(\mu_X, \sigma_X^2)$ ,  $Y \sim N(\mu_Y, \sigma_Y^2)$  に対して,

$$S = aX + bY \sim N(a\mu_X + b\mu_Y, a^2\sigma_X^2 + b^2\sigma_Y^2)$$

特に,

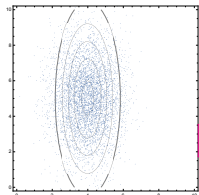
$$S = X + Y \sim N(\mu_X + \mu_Y, \sigma_X^2 + \sigma_Y^2)$$

**再生性**とは、独立な確率変数  $X, Y$  の和  $S = X + Y$  が (パラメタは違うけど) 同じ分布 (今なら正規分布) にしたがるという、稀なよい性質。

他に、二項分布、ポアソン分布など。

岩薩林 確率・統計 例題 4.14 特定の  $a, b, \mu, \sigma$  での証明

実は、一般の (独立とかぎらない) 2次元正規分布に対しても  $aX + bY$  は1次元正規分布にしたがることになる。



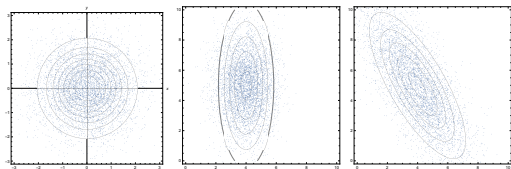
## ここまで来たよ

### ● 確率変数の和

### ● 2次元正規分布

- 一般の1次元正規分布
- 2次元正規分布 ( $X, Y$  が独立)
- 2次元正規分布 ( $X, Y$  が独立でない)

## 等高線が傾いた楕円の分布も作りたい!



### 考え方 1

等高線が円  $D = x^2 + y^2$

等高線が傾いた楕円  $D = x^2 + cxy + 2y^2$

2次形式の標準化 (線形代数 I, II)

考え方 2 独立じゃなくしたいから、指数関数の引数に  $xy$  の項でもいれておけば?

## 一般の2次元正規分布

$$f(x, y) = \text{定数}' \times e^{-ax^2 - by^2 + cxy + px + qy}$$

↪

### 一般の2次元正規分布の同時確率密度関数

2次元正規分布  $N(\boldsymbol{\mu}, \Sigma)$  の同時確率密度関数は、確率変数を  $\mathbf{X} = {}^t(X, Y)$  とするとき、

$$f(\mathbf{x}) = \frac{1}{(2\pi)^{2/2} \sqrt{\det \Sigma}} e^{-\frac{1}{2} {}^t(\mathbf{x} - \boldsymbol{\mu}) \Sigma^{-1} (\mathbf{x} - \boldsymbol{\mu})}$$

$$\text{母平均値 (ベクトル)} \boldsymbol{\mu} = \begin{pmatrix} \mu_X \\ \mu_Y \end{pmatrix} \stackrel{\text{要証明}}{=} \begin{pmatrix} E[X] \\ E[Y] \end{pmatrix}$$

$$\text{母共分散行列} \Sigma = \begin{pmatrix} \sigma_X^2 & C_{XY} \\ C_{XY} & \sigma_Y^2 \end{pmatrix} \stackrel{\text{要証明}}{=} \begin{pmatrix} V[X] & \text{Cov}[X, Y] \\ \text{Cov}[X, Y] & V[Y] \end{pmatrix}$$



## L02-Q4

## Quiz(2次元正規分布の確率密度関数)

2次元正規分布の同時確率密度関数で,

$$\boldsymbol{\mu} = \begin{pmatrix} -4 \\ 5 \end{pmatrix},$$

$$\boldsymbol{\Sigma} = \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 3 \end{pmatrix}$$

のとき,

- ① 母平均値, 母(共)分散を答えよう.
- ② 同時確率密度関数  $f$  を(行列やベクトルを使わずに)具体的に書こう.

母相関係数  $r$ , 共分散行列  $\Sigma$ .  $c = \frac{9\sqrt{21}}{10}$

$r = -0.90$

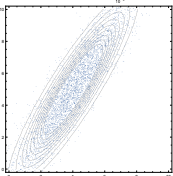
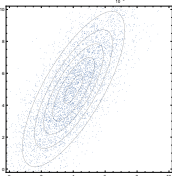
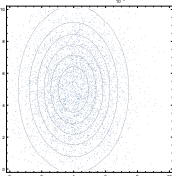
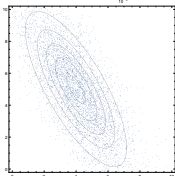
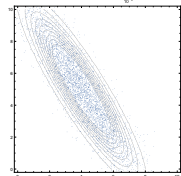
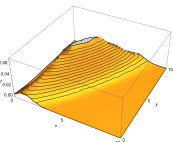
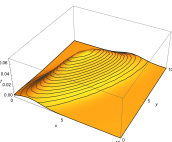
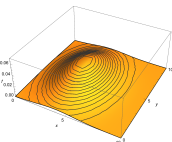
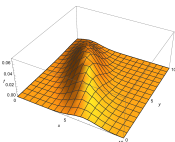
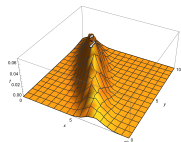
$-0.76$

$0$

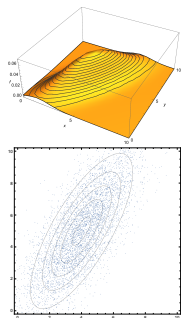
$+0.76$

$+0.90$

$$\Sigma = \begin{pmatrix} 3 & -c \\ -c & 7 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 & -2\sqrt{3} \\ -2\sqrt{3} & 7 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 & 0 \\ 0 & 7 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 & +2\sqrt{3} \\ +2\sqrt{3} & 7 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 & +c \\ +c & 7 \end{pmatrix}$$



## 2次元正規分布の周辺分布は1次元正規分布



このほか,  $X = x_0$  の条件付き分布,  $S = aX + bY$  の分布も 1次元正規分布  $\rightarrow$  再生性

## 確率密度関数から母ナントカ I

L02-Q5

### Quiz(2次元正規分布)

次の2変数確率密度関数は2次元正規分布を定める.

$$f(x, y) = C \cdot e^{-2x^2 + 6xy - 7y^2 + 26x - 54y - 7}.$$

- ① 母平均値, 母共分散行列を求めよう.
- ②  $E[1] = 1$  が満たされるように定数  $C$  を定めよう.

## L02-Q6

## Quiz(2次元正規分布)

次の2変数確率密度関数は2次元正規分布を定める.

$$f(x, y) = C \cdot e^{-x^2 + 4xy - 7y^2}.$$

- 1 母共分散行列を求めよう.
- 2  $E[1] = 1$  が満たされるように定数  $C$  を定めよう.

2次形式の標準化 (線形代数 I)

## L02-Q7

## Quiz(2次元正規分布)

次の2変数確率密度関数は2次元正規分布を定める.

$$f(x, y) = C \cdot e^{-2x^2 - xy - \frac{1}{2}y^2}.$$

- ① 母共分散行列を求めよう.
- ②  $E[1] = 1$  が満たされるように定数  $C$  を定めよう.

2次形式の標準化 (線形代数 I)